

平成17年 ホッケ計量魚群探知機調査報告

北海道立稚内水産試験場資源管理部 電話：0162-32-7166

- 5月11～13日に仙法志堆海域（利尻根・折込根周辺）において、試験調査船北洋丸により魚群探知機調査を実施し、音響データを収集しました(図1)。
- 水温は、利尻根では6.5～7.4、折込根では6.5～6.6と昨年（平成16年）より調査時期が10日ほど遅いにもかかわらず、ほぼ同じでした(図2)。
- その他の魚を含めた魚群の全体量は、折込根では昨年に比べて1.8倍程度、利尻根では0.7倍程度でした(図3)。
- 利尻根・折込根それぞれで釣獲調査も行いました。体長24～27cmが多く見られました(図4)。昨年度見られた体長19～21cmの小型のものは採集されませんでした。どちらも釣果が悪く、例年では2時間以内に100尾以上のホッケが釣獲できているのが、今年は数十尾にとどまりました。また、利尻根では釣れた尾数の7割が、折込根では8割が、ホッケ以外の魚種（主にアカガヤ、エゾメバルなど）でした(図表省略)。水中カメラに写る魚群の映像も同様の傾向を示していました(図5)。
- これらの結果から、今年の仙法志堆では、推定された魚群量は昨年と同程度かやや多いものの、ホッケの占める割合が非常に低く、依然として漁場形成が悪いことが懸念されます。

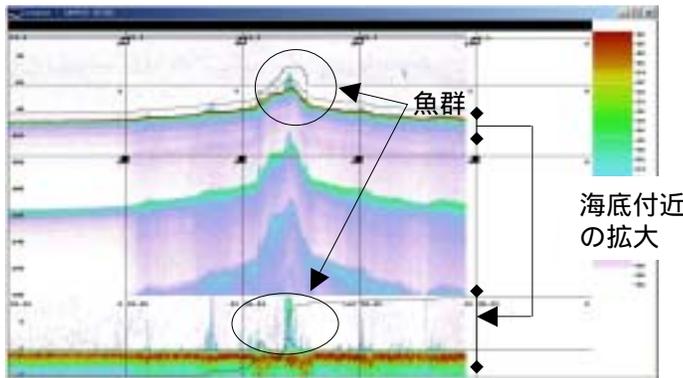


図1 利尻根付近のエコグラム（魚探画面）

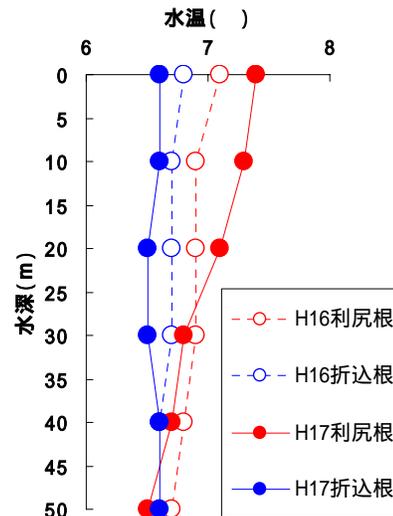


図2 調査海域における水温

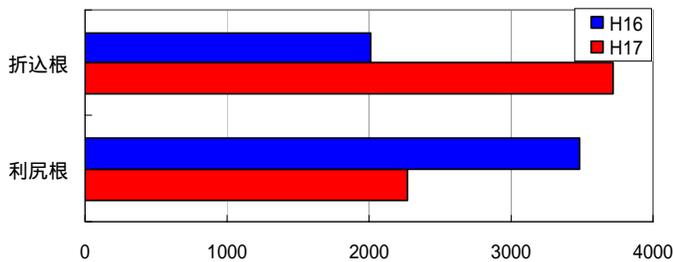


図3 分布していた魚群量の比較

魚群量指数：魚の総量を魚探反応を基準にして表した数値です。

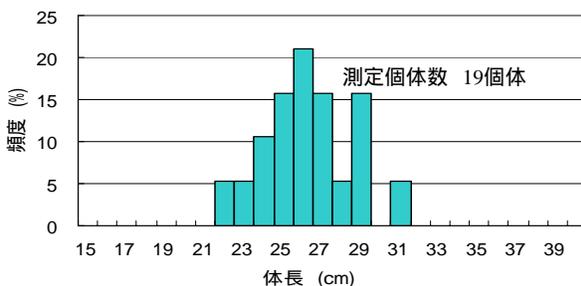


図4 折込根で釣れたホッケの体長組成



図5 ROV(水中カメラ)を用い、折込根で撮影した映像。沢山いる赤い魚がアカガヤ、矢印の先がホッケ。